

コンサルティングNOW

工場における物流品質向上へ最初に取り組むべきこと

国際物流総合研究所 主席研究員／合同会社Kein物流改善研究所 代表社員 仙石 恵一

はじめに

工場の生産運営に安全面・品質面・効率面で少なからず影響を与えていているのが物流だ。一例を挙げると構内物流が間違った部品を生産工程に届け、生産担当者がそれに気づかず誤組付けを発生させてしまうことがある。物流品質の悪さが生産品質に影響を与えててしまうのだ。だからこそ物流品質を高いレベルに置くことが求められるのは当然。しかし実際はどうだろうか。物流が自社のみならず得意先にも品質不良によって迷惑をかけていることはないだろうか。今回は物流品質を向上させるためにどのような取り組みを行っていったら良いかについて解説する。物流品質でお困りの工場管理者の方にはこれをお読みいただき、物流品質改善の第一歩を踏み出していくだければ幸いだ。

工場における物流品質とは

早速ではあるが、工場における物流品質というと皆さんは何をイメージされるだろうか。ミスのない物流が順調な生産活動を支えることになるのだが、実際にはまれに物流のミスが生産に影響を与えていることがある。そこでものの流れに沿って物流品質にはどのようなものがあるのかを整理してみよう。最初はものが工場に入ってくる調達物流について見ていく。

調達物流では必要なものが必要な時に必要な数量届くことが大前提である。これが物流における当たり前品質なのだ。この調達物流における「未納」、「納入遅れ」、「誤

ラズ得意先にも品質不良によって迷惑をかけていることはないだろうか。今回は物流品質を向上させるためにどのような取り組みを行っていったら良いかについて解説する。物流品質でお困りの工場管理者の方にはこれをお読みいただき、物流品質改善の第一歩を踏み出していくだければ幸いだ。

品納入」、「誤数納入」、「製品損傷」は物流品質の典型的な不良である。これに加え、「梱包不良」、調達トラックの「ドライバーマナー」の不良も最近では物流品質として取り扱われるようになってきた。

次に調達品を生産ラインに供給する際の物流品質では「供給遅れ」、「誤品供給」、「誤場所供給」、「供給時の損傷」などが不良として挙げられる。さらに生産後の完成品を出荷する際の「誤出荷」、「未出荷」、「出荷遅れ」、そして得意先納入時の「未納」、「誤品」、「誤数」、「製品損傷」、「ドライバーマナー」などの不良が考えられる。

物流品質不良のデータを把握する

以上のような物流品質に関して皆さんはきちんとデータを把握されているであろうか。筆者は時々物流管理者の方に次のような質問をさせていただくことがある。「御社の出荷品質不良の比率はどれくらいですか」と。この問い合わせに対して次のような回答がある。

- ①「出荷品質不良がどれくらいあるか把握していない」
- ②「出荷ミスの比率は1%程度である」
- ③「出荷ミスの比率は50ppm程度である」

このうち①が5割程度で②のようにパーセントで回答されるのが4割程度、そして③のようにppmで回答されるのが1割程度である。意外とデータを把握していないケースが多いことに驚くが、把握していてもパーセントレベルであることもまだまだ物流品質に改善の余地が大きいことを物語っていると言えそうだ。

皆さんにはぜひ調達、供給、出荷などの物流領域別に物流品質のデータを把握していただきたいと思う。そこでデータを把握するポイントを紹介しておこう。物流品質不良には「工程内不良」と「流出不良」がある。出荷を例にとれば、出荷荷物時に間違った場所に荷物を揃えし、ト

図① 工場における物流品質不良の例



ラック積み込み時にその不良が発見された場合はまだ社外に流出していない不良のため「工程内不良」とカウントする。ところがこれに気づかずに出荷し、得意先で発見された不良は「流出不良」とカウントするのである。流出不良をゼロにすることは当然であるが、そのためには工程内不良を把握しその発生要因を分析することが重要になる。よく流出不良を防止するために出荷検査に人をかけて実施する一方で工程内不良の要因分析に手を付けていない会社を見かける。これは仕事の仕方を再検討すべきだ。たしかに検査を行えば流出は防げるかもしれない

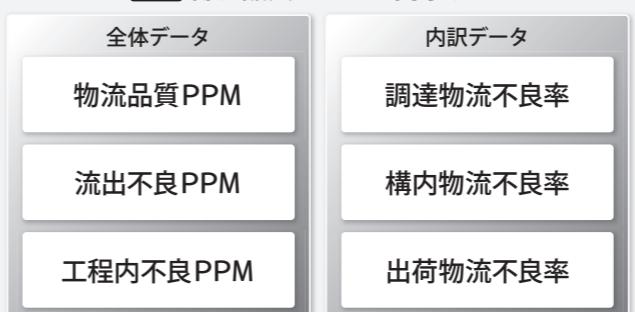
物流品質向上に向けて最初に取り組むべきこと

今まで物流品質向上活動に積極的に取り組んでこなかった工場、取り組んで入るが不十分だと考えられる工場ではぜひ以下の項目を実践していただきたい。それが今後の物流品質向上につながることは間違いないから。

自社の物流品質にはどのようなものがあるのかを洗い出してみよう

- ① 調達物流品質にはどのようなものがあるか
- ② 構内物流品質にはどのようなものがあるか
- ③ 出荷(販売)物流品質にはどのようなものがあるか

図② 物流品質データを掲示する



が、真の発生要因をつぶさなければ出荷検査作業を無くすことができないだけでなく、工程内不良も減らないだろうからだ。

把握したデータは工場内の誰もが目にするような場所に掲示しよう。「不良類型別データ」、「出荷先別不良データ」、「不良ゼロ累計日数データ」など自分たちの管理に見合ったデータをグラフ化し掲示するとよいだろう。これによって社内の物流品質に対する意識が向上するとともに、物流品質改善のきっかけになるだろう。(図①参照)

自社の物流品質データを把握してみよう

- ① 調達物流の「未納」、「納入遅れ」、「誤品納入」、「誤数納入」、「製品損傷」の月間件数
- ② 上記品質不良をサプライヤー別に分析してみよう
- ③ 出荷(販売)物流の「工程内不良件数と比率」、「流出不良件数と比率」
- ④ 把握した物流品質データを工場内の誰もが目にする場所に掲示しよう(図②参照)

【略歴】(せんごく・けいいち)国際物流総合研究所 主席研究員／合同会社Kein物流改善研究所 代表社員 物流改善請負人。ロジスティクス・コンサルタント。物流専門の社会保険労務士。自動車メーカーでサプライチェーン構築や新工場物流設計、物流人材育成プログラム構築などを経験。著書「みるみる効果が上がる！製造業の輸送改善～物流コストを30%削減～」。日刊工業新聞、月刊工場管理、月刊プレス技術など連載多数。無料メルマガ「会社収益がみるみる向上する！1分でわかる物流コスト改善のツボ」<https://www.mag2.com/m/0001069860>